

～守り、伝え、活かす～ 小諸ふるさと遺産

市内各地には、意外と知られていない地域の宝「小諸ふるさと遺産」があります。
新たな遺産認定にあわせて、小諸ふるさと遺産を守り、伝えている方々にお話を伺いました。

No.101 「高峰高原で眺める星空」

No.032 「雷電為右衛門の袂鐘」



No.018

「三岡の桃」



No.020 「ひしの南蛮」



後世に伝えたいもの

小諸市の地域で大事に
守り伝えられてきたも
の、地域のシンボル
などその歴史的、文
化的価値にかかわらず、
後世に残していきたいも
のを「小諸ふるさと遺
産」として、小諸市教育
委員会が認定するのが「小諸
ふるさと遺産制度」です。
この制度は平成30年にスタ
ート。初年度には30件、令和元
年度には31件が認定されました。
認定証（プレート）の贈呈、
冊子『小諸ふるさと遺産集（第
1集・第2集）』の刊行、小諸
ふるさと遺産など文化財の保
存・継承・活用を考えるシンポ
ジウムの開催等を通じて、認定
された遺産の魅力発信にも取り
組んでいます。

《教育長にききました》

Q：小諸ふるさと遺産とは？
A：私たちは、とかく「今」ばかりを考えてしまっています。でも、その「今」は、先人たちの様々な想いのうえに成り立っています。私たちは、卓越した「歴史と文化」をもつ小諸の最先端に生きているのです。そう考えると、「今」の見え方が変わってくるのではないのでしょうか。
小諸ふるさと遺産は、日常に新たな見方を与えてくれ、故郷に対する誇りを与えてくれるものだと思います。



No.011 「小諸町道路元票」

小諸市教育長
小林 秀夫

「小諸ふるさと遺産集」
ご覧ください！



Q：これからの活用方法は？
A：認定そのものが、目的ではありません。大勢の方に知ってもらうことが大切です。全部を覚えるのは難しいですが、心に残った遺産を、頭の片隅に置いてほしいですね。
知ることが、伝えることや愛することのスタートです。「小諸ふるさと遺産II 地域の宝物」を通して、皆さんが、小諸の歩んできた歴史に興味をもってもらえるように、広く情報発信をし、学びの素材にしていきます。

「No.」は遺産集での
掲載番号です。

広報こもろ 令和3年3月号

2

絆をつくる場所

花川親水公園の桜は、20年ほど前に、「花川に名所をつくろう」という区民の想いから、「花川を愛する会」が中心となって植えたものです。以来、区民有志が、この憩いの場の管理を続けています。お花見だけでなく、保育園の散歩や芦原中学校生のトレーニングにも使われています。

新町には、平成24年から「新町区・歴史的遺産を守る会」があります。歴史的遺産の発掘・保存・継承が目的です。当時は、歴史に興味がある方が区の役員に

多く、いい仲間たちに恵まれていましたね。
時代や生活の移り変わりで、人とひとの繋がりは、徐々に少なくなっています。人それぞれですが、私は「自分のことだけでなく、地域の人たちと関わり合う人生」を好みます。これからも歴史的遺産や伝統行事を通して、地域の絆をつくれればと思います。（高橋さん）

新町区・歴史的遺産を守る会 会長
高橋 要三さん



No.005 「新町の三大桜」

花川親水公園、押出しの桜並木、手代塚城址の三大桜名所は、地域住民が協力して管理し、地域のコミュニティ活動の重要な場所となっている。



恵みの水を守る

女堰の始まりは古く、室町時代にまで遡るといわれます。「遺産」といっても、現役の用水路です。昭和27年に水源を含む国有林が大里村（当時）に払い下げられ、翌年に水路改修のため「高峰土地改良区」が設立されました。限られた地域しか利用できていなかった「恵みの水」が広がってきました。

生活に密着した用水路ですから、落石や枝の撤去、草刈りが欠かせません。毎月の点検に加え、年2回、100人以上で堰普請をします。これが、本当に大変なんです（笑）。
女堰の管理に関わるよう

No.078 「女堰」

大里地区で利用される用水路。延長4kmにも及ぶ、大地を育む大切な用水路。女の人が、出水を念じて「しこ」を踏んだという言い伝えがある。



小諸市高峰土地改良区
理事長 中込 新一郎さん（右）
総括監事 土屋 政紀さん

になってから、先人の知恵と苦勞の跡を至る所にみつけます。「それほどまでに、白いお米が食べたかったんだなあ」「どうやってたら、こんな改修ができたんだ」と、思いをはせます。菱野には、もう一つ「荒堰」という水路もあります。田畑に携わる人は減ってきましたが、今後も守っていかなければなりません。（中込さん）

まずは知り、見る

市外の方々へのガイドでは、ふるさと遺産に認定されている建物や遺物を紹介することもあるんですよ。特に、徳川秀忠ゆかりの品々やその逸話には、皆さん驚かれます。でも、本当は小諸の皆さんにこそ知ってほしいです。謡曲師匠・日向吉次郎や囲碁棋士・鈴木善人（よしと）知っていますか？ 地元の歴史を知ることって、楽しいですよ。（清水さん）

海應院には、徳川秀忠から賜ったとされる品々があり、そのなかから下馬札がふるさと遺産に認定されました。それぞれに「由緒」がありますが、「おそろくそうであろう」という想像に頼るところも。伝承の難しさです。それでも、こういった品物を目の前にすると、先人の思いや過去の出来事へと、想像力をかき立てられます。そのことが大切なのだと思います。（矢嶋住職）



あおいもんちらしうちわ
葵紋散団扇

こうらいちやわん
高麗茶碗

No.068 「潜龍の松」

勇壮な枝ぶりから「潜龍の松」と呼ばれる。推定樹齢 370 年以上。



①	てんのうしや 天王社跡に建てられた元宮	新町	仙石秀久による城下町整備で清水駅の天王社が移され、その跡地に建てられた祠。
②	日向吉次郎の記念碑	荒町	江戸幕府の滅亡後、諸国を流浪して小諸にやってきた謡曲師匠・日向吉次郎の碑。
③	つむぎ 小諸紬（信州紬）	—	くず繭を草木で染めた手つむぎ糸で、平織りされた緋模様または縞模様が特徴。
④	学童集団疎開の碑	六供	太平洋戦争末期に集団疎開した、学校の卒業生による恒久平和を願う碑。
⑤	「アゝありがたきかな此の水」の碑	御牧ヶ原	県営御牧ヶ原農業水利改良事業及び団体営事業の竣工を記念し、建立された碑。
⑥	りゅうどすい げんぼおけ 竜吐水と玄蕃桶	与良	小諸の城下町に配備されていた消火用具。江戸後期から明治期に使用された。
⑦	御影用水	御影	軽井沢町の千ヶ滝を水源とする上堰と、白糸の滝を水源とする下堰からなる用水。
⑧	「柏木小右衛門生誕之地」の碑	四ツ谷	江戸初期に私財を投じ御影用水を開削した、柏木小右衛門の誕生地を記念した碑。
⑨	菱野小唄	—	昭和初期に野口雨情が菱野温泉に滞在し、自然豊かな温泉地の様子を唄にした。
⑩	徳川秀忠ゆかりの下馬札	荒町	徳川秀忠が関ヶ原へ向かう途中、小諸城に留まった際に使われたといわれる。
⑪	ろくどうじぞう 小原六道地蔵	小原	小原区六道原にある7体の地蔵尊。地域では「身代わり地蔵」と呼んで親しまれる。
⑫	せんりゅう 潜龍の松	荒町	かいおういん 海應院の境内にあり、枝ぶりから「潜龍の松」と呼ばれる。樹齢は、推定 370 年以上。
⑬	南ヶ原開拓記念碑	南ヶ原	太平洋戦争後に進められた苦しい開拓の歴史、繁栄への願いをつたえる碑。
⑭	みちしるべ 布引観音への道標	新町・川辺	「牛にひかれて善光寺詣り」で有名な、布引山釈尊寺（通称 布引観音）への道標。
⑮	真楽寺への道標	荒堀・平原	江戸時代後期に多くのひとが参詣したことをうかがわせる、真楽寺への道標。
⑯	薬師菱野温泉への道標	菱野	遠方より湯治で菱野温泉を訪れる人たちのための、案内を刻んだ5つの道標。
⑰	せき 女堰	大里	古くから大里地区で利用される用水路。大地を育む大切な水路として管理される。
⑱	小諸市動物園	古城	大正 15 年（1926）に開園。県内では最古、国内でも 5 番目に古い歴史を持つ。
⑲	市立小諸図書館	相生	小諸義塾に設置された図書室を基とし、設置運動により大正 3 年（1914）に開館。
⑳	大久保橋架橋の寄付金記念碑	大久保	明治 23 年（1890）に架けられた大久保の橋建設における、周辺住民寄付金の記念碑。
㉑	いぬ まんすい 小諸城下町の戌の満水絵図	—	1742 年（寛保 2 年戌年）に起きた「戌の満水」による小諸城下の壊滅的被害を描写。
㉒	千曲川流域の戌の満水絵図	—	大水害「戌の満水」での、千曲川やその支流、川沿いの道や集落を丁寧に描写。
㉓	てんめい やぶんおおよけのず 天明 3 年浅間山夜分大焼之図	—	「天明の浅間焼け」と呼ばれる天明 3 年（1783）の浅間山大噴火を伝える絵図。
㉔	純水館記念碑と工女の墓	六供	明治 23 年（1890）に設立され、小諸の製糸業を支えた製糸場「純水館」の記念碑。
㉕	内堀功の作品群	各所	大正 6 年（1917）旧小沼村乗瀬出身の彫刻家。弟子から小諸市へ寄贈された作品群。
㉖	清水芳仙作「山国の女」	西浦	明治 10 年（1877）旧川辺村宮沢出身の木造彫刻家。写実性の高い作品。
㉗	ぎょいこう チェリーパークラインの御衣黄	天池	チェリーパークライン入口の標高 1,000 m 付近に植えられた、珍しい緑色の桜。
㉘	不動の滝	菱野	厳寒期には水しぶきが凍って 10 m ほどの氷柱となる。「小諸眺望 100 選」。
㉙	諸の七不思議（伝説）	諸	しみずのうまや 東山道清水駅を中心に、室町時代より前から伝わる七つの不思議な伝説。
㉚	句集『ぬかつか集』	—	糠塚山に庵を建て多くの文人を招いた、江戸時代の俳人・小山魯恭が編集した句集。
㉛	『信濃商業新報』	—	明治 45 年から大正 2 年まで旧小諸町の塩川勤が中心となって発行した新聞。
㉜	津嶋神社の疫病退散の祭典	芝生田	疫病の終息を願って、明治 34 年（1901）から行われる、祠を拠り所とした祭典。
㉝	大和屋呉服店ののれん	—	「現金正札、懸直なし＝安く仕入れて安く売る」。小諸商人の気風をつたえる。
㉞	山岳信仰の役行者と不動明王	与良	しんかいこうしや 信開講社で大切に受け継がれてきた、山岳信仰を伝える「役行者」と「不動明王」。
㉟	藤村の井戸と馬場裏通り	大手	島崎藤村が小諸に住んでいた頃（1899～1905）に使っていたといわれる井戸。
㊱	高峰高原で眺める星空	—	晴天率が高く、標高 2,000m には市街地の明かりも届かず、満天の星空が広がる。
㊲	菱野の棚田の風景	菱野	山ひだに沿って広がる棚田。「日本の棚田百選」、「ふるさと信州風景 100 選」。
㊳	おなっとう	—	温かいご飯に麴菌を加えて保温し、黒豆やささげ豆の甘煮加えた、郷土料理。
㊴	平原駅	平原	南大井村・北大井村の誘致活動により、昭和 27 年に南大井村平原に開業した駅。
㊵	小諸尋常高等小学校編『浅間山』	—	浅間山研究会が収集した多数の資料をもとに、浅間山地誌や歴史文化が記される。
㊶	のぶしげ ぼひょう 武田信繁の墓標	大久保	川中島合戦において戦死した武田信繁（武田信玄の弟）の首塚とつたわる墓標。



令和 2 年度

小諸ふるさと遺産

～後世に守り伝えたい～

長野県地域発元気づくり支援金活用事業を活用して小諸市が進める、市独自の認定制度です。

令和 2 年 9 月までに、新たに 41 件を認定（認定順に掲載）。認定した小諸ふるさと遺産には、「認定証」を交付します。

また、これまでに認定した小諸ふるさと遺産をまとめた冊子を、

4 月より小諸市教育委員会窓口ほか市内公共施設にて配布します。



新たに41件を
認定
しました。